

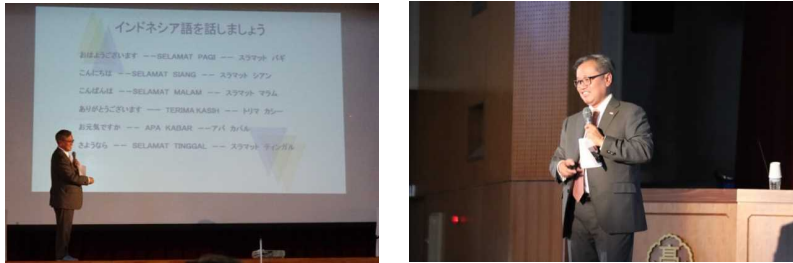
# 生徒会室はA棟2階です

愛知産業大学三河高等学校 生徒会執行部  
平成31年 1月 9日 (水) 発行

皆さんこんにちは、生徒会執行部です。

平成30年9月28日(金)に実施しました『駐日外交官による交流プロジェクト』関係者のメッセージが届きましたので紹介します。

## 駐日インドネシア共和国 M.アバス リドゥワン公使



私は生徒の皆さんが、インドネシアに関する展示のために注いでくださった創造性と献身的な取り組みに、大いなる感銘を受けました。若者一人一人の成長にとり、他の文化のこともっと知ろうと努力することは、非常に重要です。世界は益々、地球村のように一つになってきています。したがって、この時代において、オープンマインド(=心を開くこと)、柔軟性、創造性は成功のための大切な要素となります。

私は貴校が、これからも今回のような生徒たちの視野を世界に広げる活動を続けていくことを切に願っています。また、インドネシア大使館としても、将来、貴校がインドネシア国内の学校、ないしは東京にあるインドネシア人学校と文化交流をなさるのを歓迎いたします。皆様のご成功をお祈りしています。

## 公益財団法人 五井平和財団 事業ディレクター 中山 樹

生徒会の皆さんが1学期中より、インドネシア共和国について熱心に調べ、趣向を凝らしたプログラムや展示内容を入念に準備し、当日に臨まれたことに、心より感謝と敬意を表します。M.アバス リドゥワン公使は、常に笑顔で絶やさず、生徒の皆さんとの交流を楽しんでおられました。国の端から端までの距離が、東京と首都ジャカルタ間の距離に匹敵する程の広い国土に300以上の民族が暮らし、700以上の言語が使われ、料理の種類も豊富なインドネシアという国が持つ多様性、日本を代表する企業がインドネシア国民の間で抜群の知名度を持っていることなど、公使からたくさんのお話を聞いていただき、皆さんの興味も尽きなかったのではないのでしょうか。改めて、生徒の皆さんや先生方のご尽力と温かいおもてなしに、心より感謝いたします。トリマ カシー!

## 特別授業 岡部 聡 講師 (川崎汽船株式会社 社外取締役)



今回のプロジェクトで愛知産業大学三河高校の皆さんと過ごした時間は私にとって大変うれしく、充実したものでした。皆さんの熱心な取り組みが今も心に印象深く残っています。

学生時代からこれまでの私の人生は、尊敬する恩師・上司として多くの友人と交わり、恵まれ充実した半世紀でした。皆さんにはこれから前途洋々たる未来が広がっています。どうか自ら限界を引くことなく好奇心を持って世界に羽ばたいてください。コミュニケーションの本質を見失うことなく皆と歩み寄り努力を続ければ、多くのご縁があなたたちを助けてくれるでしょう。

そして何ごとにも集中して取り組むことを忘れないでください。集中することで行動力が身に付き、問題解決能力にもつながります。また、考えが深

まり他のことへの視野も広がるはずです。集中することで道は開けるものなのです。

道なき道に行くことは大変な事にも思えますが、素晴らしい経験を得られます。振り返った時に自分の道ができていくこと、それこそが生きた証となります。世界は広く、面白いことがたくさんあります。若い皆さんたちには自信をもって地平線を開拓していつてもらいたいと願っています。



## 中高一貫生 野口 皓正

今年のテーマであるインドネシアのみならず、日本についても調べ、より知識を深めることができました。

リドゥワン公使講演では、日本語で話をされとても親しみを感じました。母国語での挨拶から経済的な話まで幅広く教えていただき勉強になりました。パネラーとして舞台にもあがり、質疑応答をする中で、リドゥワン公使と岡部講師からこれからの人生を豊かにするであろうお答えをいただくことができました。このような体験を大切に、海外の方とも、もっと積極的に話せるよう自ら発信していくことに努めたいと思います。



## 高校生 電気科 伊藤 友輔

私が、パネルディスカッションで印象に残っていることは、インドネシア国旗の赤色が示している意味です。

その意味は、勇気と情熱で、その勇気という言葉は良いと感じました。

それは、インドネシアも日本も勇気があったから、経済発展などへの挑戦ができたと思うからです。私も、様々なことに勇気を持って挑戦していきたいです。

## 生徒会副会長 メトキ 遥

私は、リドゥワン公使の講演から、たくさんの知識を得ることができました。公使のインドネシア語の挨拶が印象深いです。今年の文化祭テーマ「国境なき文化祭 -インドネシア-」でしたが、インドネシアだけでなく様々な国のことを知る機会を設けたいと思いました。

パネルディスカッションを通して、知らないことが多いと実感しました。知らないことが多い分興味を持つことができました。中でも、国技について興味を持ちました。バドミントンは、体育の授業でもやったことがあるので、とても身近に感じました。この先、たくさんのスポーツに触れる機会があると思うので、どこの国の国技かを意識していこうと思います。



本プロジェクトは、五井平和財団と中部経済同友会(教育を考え行動する委員会)の協力により実施できました。異文化理解の一助になれば幸いです。ありがとうございました。